

たてはく

開館35周年 令和8年度後期特別企画展

立山黒部を貫く!—電源開発と観光—

会期:令和8年9月19日(土)~11月8日(日)

立山黒部アルペンルートや黒部峡谷鉄道は、富山県を代表する観光地として、多くの人に親しまれています。その背景には、険しい山や深い谷を貫いて道をつくり、開発した人々の挑戦の歴史があります。

立山黒部アルペンルート全線開通及び黒部峡谷鉄道株式会社設立55周年に、本展では、黒部川電源開発の始まりから立山黒部アルペンルート全線開通までの歴史をたどり、立山黒部がどのように観光地として発展してきたのかを紹介します。映像や写真、模型などを通して、その歴史や魅力を分かりやすく知ることができます。また、黒部宇奈月キャニオンルートにも注目します。自然と人の力が生み出した、ワクワクする立山黒部の魅力を味わってみませんか。

(森山義和)

観覧者には、もれなく
「特製乗り物クリアファイル」をプレゼント!

関連イベント

①担当学芸員による展示解説会(一般向け)

9月19日(土)、9月23日(水・祝)、10月3日(土)、11月3日(火・祝)
すべて 14:00~15:00

②ミニ鉄道走行会「ドクターイエローに乗ろう!」

ミニ列車が走ります。乗ることもできます。

開催日:10月10日(土)

10:00~15:00(12:00より30分間は休憩)

場 所:芦峯公民館前 駐車場

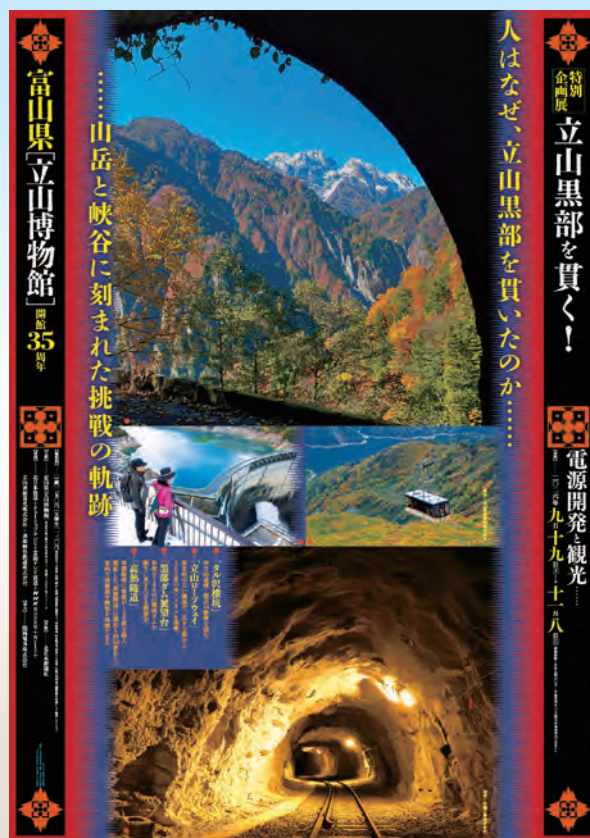
※申込不要、後期企画展をご覧になった方

③Nゲージ走行観覧会

Nゲージ鉄道模型が走る様子をご覧ください。

開催日:10月24日(土)、25日(日) 10:00~15:00

場 所:教算坊 ※申込不要、参加無料



開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室
開館時間 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料 一般250円、大学生130円 ※高校生以下は無料
休館日 月曜日(9/21、10/12、11/2は開館)、
10/13(火)、11/4(水)

●9/17(木)9/18(金)は企画展の準備作業のため、全館臨時休館します。

目次

開館35周年 令和8年度後期特別企画展 立山黒部を貫く!—電源開発と観光—	1
現代的イベント「布橋灌頂会」の開催	2
開館35周年・前期特別企画展「立山地獄めぐり」を終えて	2
暑い中も、ボランティア大活躍中です!	2
立博雑学 テルマエ・タテヤマ	3
博学連携 たてはくで「博物館実習」を実施!	3
令和8年度文化講演会「黒部電源開発と立山黒部アルペンルート開発の歴史」を開催します	4
秋の教算坊で「もみじを愛でる会」	4
今年の夏も「たてはく探検隊」で学ぶ!	4
「夏の夜は、地獄尽くし」ミュージアム de ナイト in 芦峯寺(8月8日~9日)	4
編集後記	4





現代的イベント「布橋灌頂会」の開催

江戸時代の立山では、生前自ら積み上げた罪の内容や軽重によって、死後、「地獄」に堕ちると信じられ、「墮地獄」から逃れるために罪滅ぼしを目的とする「立山禪定登拝」が男性の間で盛んになりました。立山禪定登拝において、【厳しい登山】は【苦行】に、【地獄谷めぐり】は【墮地獄】と考えられ、【無事に下山する】ことは【苦行による滅罪】や【墮地獄からの脱地獄（生還）】を意味し、死後の極楽往生が約束されたのです。

一方、女性は「五障三従」（女性が生まれつき持っていると考えられた5つの障害と、親・夫・子に従うべきものとする3つの道）の身といわれ、死後、必ず地獄に堕ちるとされました。血の池地獄や石女地獄など女性専用の地獄まで存在し、「極楽往生も叶い難し」と説かれたのです。

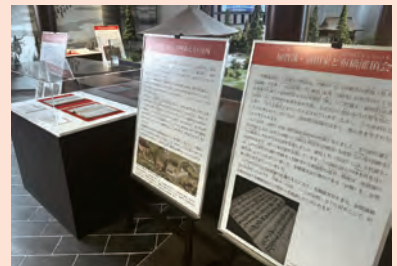
立山山中の「血の池地獄」に堕ちると信じられていた女性たちを救うべく、江戸時代には芦峯寺集落で閻魔堂・布橋・娼堂を舞台として「布橋灌頂会」が行われていました。そして、この現代的イベントが、今年9月27日（日）に開催されます。女人衆は募集人数を大幅に上回る応募があったそうで、開催が今から楽しみです。

立山博物館でも布橋灌頂会開催記念展「布橋灌頂会の魅力がわかる！」を開催中（～9月27日まで）ですので、現代的イベント「布橋灌頂会」と併せてお楽しみください。

（細木ひとみ）



布橋灌頂会（令和4年9月25日撮影）



布橋灌頂会開催記念展



開館
35周年

令和8年度前期特別企画展 「立山地獄めぐり」を終えて



開館35周年の節目にあたり、立山地獄をテーマに特別企画展を開催しました。当館における地獄展の開催は、開館10周年「地獄遊覧」、開館25周年「立山×地獄展」に続き、3回目となります。

今回は、日本を代表する地獄絵とともに立山曼荼羅に描かれた立山地獄を中心に、地獄とはどのような世界なのかを、約100点の絵画や映像・写真で紹介しました。そして「大人も子どもも楽しめる」をコンセプトにしました。そこで会場入口に学芸員手作りの「首かせ」を設置し、閻魔大王の凶像と写真撮影できるコーナーを設けました。また、解説パネルの上部には一般向けの解説を入れ、下部には「地獄ミッション」と題して10問のクイズを用意し、クイズに取り組みながら地獄の世界を学べる

ようにしました。

8月2日には、関連イベントとして子ども向けの地獄セミナー「ようこそ、地獄の世界へ！」を実施しました。雄山高校3年の堀田さん、渡辺さんによる地獄の絵本の読み聞かせや大阪在住の大島さんによる地獄クイズ大会で大いに盛り上がりしました。また、射水市大島絵本館と富山県立図書館との連携企画も実施し、多くの県民の皆様が「地獄」にふれるひんやりした夏になったのではないかと思います。観覧者プレゼントの当館オリジナル「えんま帳」も好評でした。

最後に、本展開催にあたり貴重な資料をご出品いただいた所蔵者をはじめ、ご協力、ご観覧いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

（館長 高野靖彦）



展示解説会



内覧会の様子



地獄セミナー 絵本の読み聞かせ



地獄セミナー 地獄クイズ大会

ボランティア 活動報告

暑い中も、ボランティア大活躍中です！

- ボランティア有志が、7月20日（月・祝）・8月23日（日）開催の「たてはく探検隊」や8月8日（土）・9日（日）開催の「ミュージアム de ナイト in 芦峯寺」において、準備や当日運営などで大活躍しました。
- 第3回教養講座「明治から大正に立山を登った外国人」、第4回教養講座「立山地獄めぐり」解説会を実施しました。どちらも15人以上の参加者があり、充実した学びの時間となりました。
- ボランティアを随時募集しておりますので、興味のある方はお気軽にお問合せください。

（河野史明）





学芸課発

立 博 雑 学



テルマエ・タテヤマ

これまで全くといっていいほど「温泉」というものに興味がありませんでした。すぐに体が熱くなって、ものの5分も浸かっていられなかった私ですが、年を重ねてきたからでしょう。最近は心身ともにリラックスを求めて時たま近所の温泉や銭湯に足を運ぶようになりました。温泉の効能はもちろんですが、多くの日本人にとってあの温泉独特の雰囲気心がを安らげるのでしょうか。では外国人は日本の温泉をどのように感じるのでしょうか？今回は明治から大正にかけて2度立山温泉（1580年に元泉発見、1973年閉鎖）を訪れたW・ウェストンの反応を紹介したいと思います。

ウェストンは、1861年にイングランドで生まれ、25歳ごろより本格的な登山をはじめました。1888年に英国国教会の宣教師として来日し、1890年に眼病のために宣教師を辞任したのち、日本国内で精力的な登山活動を行いました。その著書によって、日本の山々や、山村の習俗・習慣などを海外に紹介しています。また、日本山岳会の設立を提唱した人物でもあり、立山温泉には1893年と1914年の2度訪れています。

①1893年の立山温泉

大町-針の木峠-ザラ峠を越えて立山温泉に到着したウェストンは、「ロマンティック」な雰囲気の中で8月8・9日の2日間を過ごしました。著書では立山温泉の、客室や浴場の様子、代金を記載しています。

宿の番人は私たちを見て非常にびっくりしたが、彼はこの上もなく親切に迎えてくれた。そして数分の後にはお湯に入り、その体を柔らかくする効き目を楽しんでいた。（中略）入浴者はおもに、常願寺川の上流近くの村々から来る百姓だった。男女混浴で、時には一度に50人くらいもはいるけれども、みんなの態度は非常に行儀がよい。私が竜山下に滞在していたあいだじゅう、200人のお客が泊まっていた(1)。

②1914年の立山温泉

7月29日に上野を出発し直江津-滑川-五百石-芦崎寺-材木坂-追分-室堂-雄山と行程を進め、剣岳登頂を目指しましたが悪天候で断念。8月3日の午後3時30分にずぶ濡れで立山温泉に到着しました。大勢の旅行

学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博にうんちくについての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

者が滞在しており、夜間の騒音（宴会の盛り上がり）に苦言を呈しています（道中の山小屋でも常に日本人の「騒音」への不満を書き連ねています）。あまりにも不満そうだったので、河岸改修の調査に来た富山県庁の役人団の団長に静かな部屋を譲ってもらっています。ニンニク入りオムレツが出てきて少しは機嫌が直ったと思いきや、日本人の宴会の様子に再び憤慨しています(2)。しかし、温泉施設については、山奥にも関わらず豪華な食事や個室が提供されていることに好印象を持っています(3)。

私にとって温泉は、宴会とそこで「楽しみすぎている人」もセットという認識ですが、山の自然と静けさを愛するウェストンにとってはいささか盛り上がりすぎていたようです。（河野史明）

註

- (1) ウォルター・ウェストン著、岡村精一訳『日本アルプス』、平凡社、1995年、p161
- (2) ウォルター・ウェストン著、三井嘉雄訳『日本アルプス登攀日記』、平凡社、1995年、p263-p266
- (3) ウォルター・ウェストン著、水野勉訳『日本アルプス再訪』、平凡社、1996年、p294-p296



立山温泉宿泊簿（深見家文書）個人蔵
ウェストンが1893年8月9日から14日にかけて宿泊していることがわかります。

博学連携

たてはくで“博物館実習”を実施！

令和8年度の博物館実習は、8月18日（火）～21日（金）と25日（火）～28日（金）の計8日間で実施し、2名の大学生が受講しました。

●柴田理名さん

今回の実習では、大学の授業だけでは学ぶことが出来なかった資料を扱う緊張感や、博物館が果たす役割の重要性を実感しました。特に企画展の解説をしていただいた際には、学芸員の視点による展示の工夫を直接学ぶことができ、大変勉強になりました。今後、自身の制作した作品を展示する際にも、今回学んだ視点を取り入れて取り組んでいきたいです。短い期間ではありましたが、温かくご指導いただきありがとうございました。

●沼田美咲さん

実習を通して、立山の自然や地獄、学芸員として働くことについて学びました。施設の見学だけでなく、立山曼荼羅の絵解きや企画展示案の研究を通して、博物館がもつ知識や資料をいかに来館者に魅力的に見せるかが難しいと分かりました。

貴重な経験をさせていただき、大学で学んだことを深めることができました。立山博物館のみなさん、ありがとうございました。



資料整理



室堂平で石造物調査





秋の催し

令和8年度文化講演会を開催します

立山黒部アルペンルートと黒部峡谷鉄道は、富山県が誇る全国的な観光地です。しかし、最初から観光地ではありませんでした。その背景には、険しい山や深い谷を貫いて道をつくり開発した人々の、まさに山岳と峡谷に刻まれた挑戦の軌跡があります。「観光地・立山黒部」がどのように誕生したのかを、講師お二方に黒部川電源開発の歴史と、立山黒部アルペンルート開発の歴史と題して、わかりやすく紹介していただきます。（森山義和）

演題 「黒部川電源開発と立山黒部アルペンルート開発の歴史」

講師 河田 稔 氏（富山近代史研究会理事）

高木 晴秀 氏（元立山研修会館事務局長）

日時 令和8年10月17日（土）13:30～16:30

場所 立山町元気交流ステーションみらいぶ 1階 イベント広場

主催 富山県 [立山博物館]

後援 立山町教育委員会

その他 定員70名、聴講無料



建設中黒部ダム一部発電開始
（関西電力株式会社提供）



高原バスを運ぶケーブルカー
（立山黒部観光株式会社提供）

秋の教算坊で「もみじを愛でる会」

紅葉に彩られる芦峯寺の「旧宿坊 教算坊」で、日本庭園の風情を楽しみながら、「立山曼荼羅」の絵解き解説をお聴きいただけます。

芦峯寺の皆様のご協力による呈茶もご用意しておりますので、電車とバスで秋の芦峯寺を訪れ、歴史・文化と秋の風情をお楽しみください。

開催日時：11月7日（土）10:00～16:00

絵解き解説：①10:30～ ②13:30～ ③14:30～
各回約30分

場所：教算坊 ※申込不要、参加無料

●呈茶は数に限りがございますので、
なくなり次第終了とさせていただきます。



今年の夏も“たてはく探検隊”で学ぶ！

夏恒例、小学生向けイベント「たてはく探検隊」を7月20日（月・祝）と8月23日（日）に開催しました。両日ともに参加定員の25名を大きく超える応募があり、やむをえず抽選を実施しました。

教算坊、企画展示室、閻魔堂、布橋と4つの施設を学芸員の解説



説&クイズに解答しながら巡りました。最後にたどり着いた遙望館では立山に関する○×クイズを行い、大いに盛り上がりました。2日間ともに、朝から気温の高い日でしたが、水分補給をこまめに行い元気に活動できました。参加者からは、「立山の歴史が知れて良かった」「子どもが熱中していた」といった声をいただき、立山博物館を満喫していただきました。（河野史明）

“夏の夜は、地獄尽くし”

ミュージアムdeナイトin 芦峯寺
（8月8日～9日）



恒例のスタンプラリー、地獄の番人とのクイズ大会、立山曼荼羅絵解きに加え特別企画展も立山地獄めぐりだったので、館全体が地獄尽くしのイベントとなりました。初日は天候には恵まれませんでしたが、それでも両日も家族連れを中心にご来館いただき、子供たちの歓声が響きました。



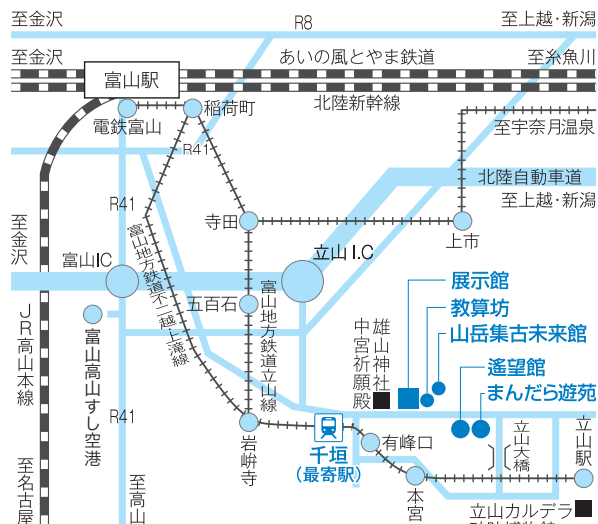
特別企画展入口の写真撮影スポットでは記念撮影される姿も見られ、夏のひとときここでしか味わえない雰囲気を楽しんでいただきました。

来年も、また工夫を凝らして怖くて楽しい内容を盛り込んでお届けしたいと思っています。ご期待ください。（展示館302名、教算坊424名、山岳集古未来館289名）（吉野俊哉）

編集後記

今年の秋は、やっぱり「布橋灌頂会」でしょう！昨年から展示や講演の他、取材の問い合わせも多く、あちらこちらで宣伝してきました（笑）前日に展示館をゆっくり観覧し、当日は江戸時代の雰囲気を感じると、芦峯寺の「場のチカラ」に触れられるかもしれませんね。（H）

案内図



●最寄り駅

富山地方鉄道立山線千垣駅下車

徒歩約30分（約2km）

※日曜・祝日を除き町営バス運行

「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で

JR富山駅から 約45分

立山駅（千寿ヶ原）から 約15分

富山インターチェンジから 約35分

立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のHPは
こちらから



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1

TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144



でも情報発信中

立山博物館

